

奈良市学校規模適正化検討委員会（平成 25 年度第 2 回）会議録

1 日時 平成 25 年 12 月 26 日（木）午後 2 時～3 時 30 分

2 場所 奈良市役所 北棟 5 階 第 21 会議室

3 出席者

【委員】 重松敬一委員、岡毅委員、井上芳恵委員、古山周太郎委員、竹村健委員、畑中康宣委員、松村広美委員、岡田和大委員、上山勝己委員、瀬古口浩之委員、南出藤作委員

【市職員】教育総務部長、学校教育部長、教育総務部次長、教育総務部参事、子ども未来部参事、教育総務課長、保健給食課長、地域教育課長、子ども政策課長、教育政策課長

【事務局】教育政策課職員

4 会議事項

- (1) 学校規模適正化の現状について
- (2) 中学校区別実施計画（案）「後期計画」について
全て公開で審議。（傍聴人 0 人）

5 配布資料

- 中学校区別実施計画（案）「後期計画」について
- 児童生徒数の推移
- 平成 25 年度推計（小学校）（中学校）

6 議事の要旨

- 事務局が、案件について説明。
- (1) 学校規模適正化の現状について
 - 中期計画では、平成 26 年 4 月を目途に旧大柳生小学校校舎を中学校仕様で改築し、興東中学校と柳生中学校が統合移転する旨の説明を行ってきた。興東中学校は校舎の老朽化、耐震化等の関係もあり、地元の合意を得て移転を進めている。柳生地区には理解を得られておらず、現在も保護者や自治連合会長に説明を続けている。旧大柳生小学校校舎の改修工事は、洋式トイレや武道場の新築等、平成 26 年 3 月に完成予定。

- 10月に開催した興東地域検討協議会では、スクールバスや通学路について要望が出た。柳生地域保護者説明会では、統合が現実味を帯びてきたからか、「今ではなく来年以降に統合した場合、不利益はないのか。」といった意見も見受けられた。柳生地区自治連合会長からも「全体の場では言いにくいので、一人一人の意見を聞いてほしい。」といった話があった為、12月に柳生小学校と柳生中学校の保護者へ個別に面談を行った。柳生小・中学校全保護者36人中、賛成が78%、反対が17%、どちらでもよいが5%であった。代表的な賛成意見としては、「ゴルフ場へ行く車が多く、自転車通学は危険。バスならば安全だ。」「部活動が卓球と剣道しかなく、少人数では活動が出来ない。」などが挙げられた。反対意見としては、「少人数が悪いとは思わない。」「地域から学校がなくなるのは寂しい。」などが挙げられた。この結果を自治連合会長へ報告した。今後は、保護者説明会にてこの結果を報告し、保護者の意見をまとめた上で検討協議会を開催できるよう働きかけていきたい。
- 現状として児童生徒数が少なすぎる為、柳生中学校と興東中学校同士、柳生小学校と興東小学校同士で交流学习を行う。小学校は1月17日と2月20日に4～6年生が体育や世界遺産学習の発表などを行う。中学校は1月22日と2月4日に1,2年生が百人一首や体育などを行う予定をしている。
- 精華小学校は、児童数が非常に少ない為に学年で男女の偏りがあるのが現状である。しかし、地域の方に統合再編への理解を示して頂けず、検討協議会も開催できていなかった。12月16日に社会福祉協議会が開催され、幼稚園が議題として挙げられた際、幼稚園だけでなく小学校のことも考えていかなくてはならないという意見があり、小学校について説明させて頂く機会があった。そこで、検討協議会を開催してもよいという返答を頂き、2月中旬以降に開催できるよう進めている。

(2) 中学校区別実施計画(案)「後期計画」について

- これまで学校規模適正化がなかなか進められなかった課題をまとめた。
 - ・地域の方に反対された場合、検討協議会が開催できない運営体制
 - ・統合に賛成する声を言い出しにくくしている意見の集約方法
 - 柳生がまさにその通りで、説明会では明らかに反対の雰囲気だったが、実際聞き取りをしてみると、約8割の方が賛成であった。

- ・統合は仕方なくとも、自分たちが動くのは反対という意識
- ・地域の核である学校がなくなる寂しさ
- ・少人数でも今まで特に問題はなかったことによる問題意識の薄さ
- ・講師配置により複式解消しているので問題はないという意識
- これらの課題を解決する為に後期計画では次のことを考えている。
 - ・検討協議会の設置、運営について

過去に検討協議会を開催して統合を進めた例も数多くある。検討協議会自体が問題と言うわけではない。検討協議会が開催できない状況の場合、学校長や教員の力を借りることも必要かと考えている。
 - ・個々の意見を引き出す取り組みについて

説明会後にアンケートを実施したり、対面形式での説明会では意見を言いにくい為、懇話会形式にする等を検討している。
 - ・学校や地域の将来像（ドリームプラン）について

地域にとって学校は核になっている。市長部局と連携して、どこまで将来像(ドリームプラン)を提示できるかが課題となる。
- 後期計画での適正化対象校は、現在の段階の案として、過小規模校である精華小学校、田原小学校、田原中学校、並松小学校、吐山小学校、六郷小学校、柳生中学校、興東中学校を考えている。しかし、小規模校についても今後適正化対象校となることも考えられる。
- 各中学校区の後期計画案について示すので、ご検討頂きたい。
 - ・平城西中学校区

右京小学校は小規模であるが、今後の児童数の減少が緩やかなため、児童数の推移を見守ることとする。神功小学校は現在適正規模であるが、平成 28 年度までに児童数は 80 人減少する見込みである。そこで小規模同士になれば統合再編も考えられる。
 - ・平城東中学校区

佐保台小学校は過小規模であるが、今後住宅開発等の影響により児童数が増加すると予想されるため、児童数の推移を見守ることとする。後期の適正化対象校からは外す方向で検討している。
 - ・富雄中学校区

富雄北小学校と富雄中学校は今後も大規模な状況が続くが、児童・生徒数が緩やかに減少に向かうと予想されるため、児童・生徒数の推移を見守ることとする。
 - ・登美ヶ丘北中学校区

東登美ヶ丘小学校は大規模であるが、今後、児童数が緩やかに

減少に向かうと予想されるため、児童数の推移を見守ることとする。

・二名中学校区

青和小学校は大規模な状況が続くが、適正規模を大きく上回らないことや、今後、児童数が減少に向かうと予想されるため、児童数の推移を見守ることとする。

・伏見中学校区

伏見小学校は今後も大規模な状況が続くが、適正規模を大きく上回らないことから児童数の推移を見守ることとする。

西大寺北小学校は今後も大規模な状況が続くが、児童数が緩やかに減少に向かうと予想されるため、児童数の推移を見守ることとする。

・富雄南中学校区

富雄南小学校、三碓小学校は今後も大規模な状況が続くが、児童数が緩やかに減少に向かうと予想されるため、児童数の推移を見守ることとする。

・登美ヶ丘中学校区

全て適正規模である為後期計画は無し。

・京西中学校区

六条小学校は今後も大規模な状況が続くが、児童数が減少に向かうと予想されるため、児童数の推移を見守ることとする。

・富雄第三中学校区

富雄第三中学校は小規模だが、富雄第三小学校との施設一体型の小中一貫校として、特色ある学校づくりを推進していくということで、適正化対象校からは外す。

・都跡中学校区

都跡小学校は今後も大規模な状況が続くが、適正規模を大きく上回らないことから、児童数の推移を見守ることとする。

・平城中学校区

平城小学校は今後も大規模な状況が続くが、適正規模を大きく上回らないことから、児童数の推移を見守ることとする。

・飛鳥中学校区

飛鳥小学校は今後も大規模な状況が続くが、適正規模を大きく上回らないことや、児童数が緩やかに減少に向かうと予想されるため、児童数の推移を見守ることとする。

・若草中学校区

鼓阪小学校、鼓阪北小学校は小規模であるが、今後の児童数の

減少が緩やかなため、児童数の推移を見守ることとする。

・春日中学校区

済美南小学校は小規模であるが、今後、児童数が増加すると予想されるため、児童数の推移を見守ることとする。

済美小学校は大規模であるが、児童数が減少に向かうと予想されるため、児童数の推移を見守ることとする。

・三笠中学校区

椿井小学校は小規模であるが、専門的な聴力検査が行える防音室の設備が整っており、市内全域から通学できる難聴学級と難聴通級指導教室（きこえの教室）が設置され、奈良市の難聴児教育のセンター的役割を担っているため、現状を維持する。

大安寺西小学校、三笠中学校は今後も大規模な状況が続くが、適正規模を大きく上回らないことや、児童・生徒数が緩やかに減少に向かうと予想されるため、児童・生徒数の推移を見守ることとする。

・都南中学校区

精華小学校は過小規模が継続し、複式学級が発生しているため、集団活動ができる人数を安定的に確保し、教育環境を整える観点から、帯解小学校との統合再編を検討する。

・田原中学校区

田原小・中学校は今後も過小規模が継続すると考えられるが、小中一貫教育の充実を図りながら、特認校制度等の導入について検討する。中期にも検討頂いたが、再度提案したい。

・柳生中学校区・興東中学校区

柳生中学校と興東中学校はいずれも過小規模が継続しており、集団活動ができる人数を安定的に確保し、教育環境を整える観点から統合再編を行う。但し、統合先については、今後、中学校仕様に改修する大柳生小学校の場所とする。

柳生小学校と興東小学校については、今後も児童数の推移を見守っていく。

・月ヶ瀬中学校区

月ヶ瀬小・中学校ともに過小規模であるが、他のゾーンとは地理的に離れていることから、他校との統廃合は困難な状況にあるため、今後は小中一貫教育を推進するとともに、学校の活性化や特色ある学校づくりを進めていく。適正化対象校からは外す方向で検討している。

・都祁中学校区

並松小学校・吐山小学校・六郷小学校は今後も過小規模が継続し、複式学級が発生する学校も予想されるため、集団活動ができる人数を安定的に確保し、教育環境を整える観点から、都祁小学校を含めて統合再編等を検討する。それぞれ小規模校、過小規模校であり、特に吐山小学校、六郷小学校は児童数が30人台になる。都祁地域を地図で見ると、認定こども園や都祁中学校を中心に、半径約6km圏内に4小学校が入っている。

- 案件について、委員が意見交換。
 - 適正化の進め方について

重松会長　　まずは適正化の進め方から議論したい。なかなか適正化が進められない状況で、適正化の進め方、保護者からの聞き取り、学校の活用の仕方を含め検討してはどうか。保護者からも積極的に進めてほしいという意見も賜った。これらを含め適正化の進め方について意見はないか。

畑中委員　　先日柳生中学校、都祁中学校のPTA役員会議に伺った。保護者の大半は進めていくべきだと感じているが、検討協議会ではなかなか言えないという話を聞いた。保護者の意見を集約することは大切である。学校を手助けするというPTA本来の役割を考えると、学校や先生方から適正な規模について提案して頂き、保護者がそれを応援して進めていくのが良いと思う。

重松会長　　協議会という形を取れなくても、説明会の在り方などの新しいアプローチが必要になってくる。竹村委員、地域から何か話は聞いていないか。

竹村委員　　地域によって違うと思うが、仕方ないという程度の思いで止まってしまうように感じる。

重松会長　　説明会等だけでなくインフォーマルなところでも話をお聞きして進められるところは進めていければ良い。

上山委員　　今の説明で着実に進んでいる印象を受けた。特に、保護者の聞き取りをした結果、多数の賛成者がいたということは、今まで通り最終的にゼロに戻る可能性があったとしても、違う場所に戻るのかもしれない。このアンケート結果を早急に地域に知らせるのが次へのステップの第一歩になると思う。

瀬古口委員　　保護者一人一人の意見を聞き取って、集約したことは意味があったと思う。保護者は自分の子どもの環境を良くしたいという思いを持っている。そういった意見を反映させた提案をすることが大切である。中には部活動をさせるために引っ越しする家庭もあり、保護者はある程度の規

模をもった人数を希望している。本当に子どもの教育環境を良くするためには適正化は大切だと感じる。

南出委員 現状、部活動が成り立たない状態で、親としては部活動を続けさせたいという思いは以前から強い。その点では田原、柳生、興東が連合体として機能していくのがベターだと思う。聞き取りを行ったことはかなりの前進かと思う。

重松会長 子どもの教育の為にもこの状況を進めていきたい。その後も、跡地活用や地域活性化も大切であり、場合によってはそれに関わる方に参加いただいたり、ご意見を賜ったりして、地域の声を反映させた施策を具体的に提示することが大切である。

岡委員 今までの話を聞くと、去年よりかなり前進している。検討協議会が開催できないのであれば、まず前段階として懇談会などの学校、地域、保護者が率直な意見を出せる場を作るべき。意見を言いにくい状況を考慮してこういった提案(個別面接)をされたのだから、それを生かさないと憶測ばかりでは時間の無駄になってしまう。少人数であっても率直に意見を交わすことのできる場を設けてはどうか。

重松会長 フォーマルではないかもしれないが、一人一人の意見を聞き取って地域に寄り添った進め方をお願いしたい。

古山委員 自治連合会の方から保護者に聞いてみてはどうかという話が出たことは大きいと思う。しかし、賛成多数という結果をもって自治連合会に行ってもややこしくなると思う。地域住民 VS 保護者・市という構図になってしまうと、これまで積み重ねてきた丁寧な説明が無駄になってしまう。自治連合会の方の顔を立てながらタイミングを見計らって進めていくべき。

竹村委員 個々に話を聞くと悪い印象はもっていないが、集まると悪い方向へ話が流れる。もっと早い段階で計画を提示して押していけば良いのではないか。市から跡地施設を売るという話を聞いても反対の声が出ない。単なる数合わせでなく、本当に子どもの教育環境を考えた方針を示して進めていけば良いのではないか。反対の方々は昔の話を持ち出すが、いつまで経ってもそれでは駄目だと、前を向くような説得を早期からしていくべきだ。

重松会長 事務局には、活性化の方針も含めて、将来の展望について丁寧な説明を重ねて欲しい。

➤ 後期計画について

重松会長 これまでの議論も踏まえて、後期計画について検討を行う。適正

規模、小規模の学校も想定より早く過小規模になる可能性もある。中学校区別にご意見をいただきたい。まず平城西中学校区から。右京小学校に限らず、どの学校も過小規模になったからいきなり統合対象というわけにもいかない。ある程度状況を説明していきながら進めるのが良い。いきなり検討協議会を立ち上げるのではなく、統合の可能性も示唆しながら今後の在り方について検討していく。次は平城東中校区。住宅街ができたが一過性のものであり、必ず子どもが増えるというものでもない。後期計画については、先ほどと同じくある程度の説明をして、地域や学校の意見も大切にしながら進めるところは進めていくということで問題ないか。

岡委員 佐保台、左京、平城西地区はニュータウンなのか。柳生等とは地域性が全く違うのか。また、柳生地区は世代交代などで将来的に人が増える可能性はないのか。

[事務局] 佐保台、左京はニュータウンである。柳生とは地域性は全く違う。右京で言うと、開発当時に入居した人たちが現在 60～70 代になり、その子どもが入ってくることもあるだろうが、老人世帯が残る状態が生まれつつある。

重松会長 他市を見ても、若い世代の流出だけでなく、高齢の方が出ていくということもある。そう考えると、奈良市も将来像を見据えながら進めていくべきだろう。富雄中学校区はいかがか。

瀬古口委員 富雄中学校は現在 801 人となっているが、来年度は 750 人程度になる見込みである。富雄第三中学校が分離してから、徐々に適正規模に近付いており、しばらくはやや多めで推移する。富雄北小学校は運動場が狭く、大規模だと感じるところがある。

重松会長 富雄北小学校は児童数が減少し適正規模に近付いていくため、推移を見守るという後期計画で対応できる。登美ヶ丘北中学校区はいかがか。

南出委員 登美ヶ丘北中学校は適正規模で推移すると思われる。近鉄奈良学研登美ヶ丘駅ができ開発が進んでいる。多数のマンションが建設され、大阪からも人が来ている。特に東登美ヶ丘小学校は新入生が 5 クラスになり、目いっぱい規模になりつつある。これ以上増えるようなら、プレハブが必要になるかもしれないという話も出ている。登美ヶ丘小学校にはまだ余裕がある。

重松委員 登美ヶ丘北中学校区については、このまま推移を見守る形で当面問題はないということである。二名中学校区はいかがか。

南出委員 登美ヶ丘小学校から 3 分の 2 は登美ヶ丘中学校へ、3 分の 1 は二名中学校へ進学する為大きな変化はないと思う。青和小学校も二名小学校も戸建の家が多く、これからもこの状況が続くと思われる。

重松委員 それでは、伏見中学校区はいかがか。ここについても多少の減少

はあるものの、今の状況が続くということで推移を見守ることとする。富雄南中学校区はいかがか。

瀬古口委員 三碓小学校は富雄南中学校と富雄中学校に分かれ、大半が富雄南中学校に進む。確かに大規模であり、減少に向かうと予想されているが、引き続き学習環境の整備をお願いしたい。

重松会長 登美ヶ丘中学校区は現在全て適正規模である。今後を正確に予測するのは難しいが、多少振幅しながらこのまま推移するであろう。京西中学校区は特に意見なければ、児童数はこれ以上増えず、特段問題ないとのことであるので推移を見守ることとする。富雄第三中学校区の中期計画がないのはどういった理由なのか。

[事務局] 中期計画では富雄第三中学校は平成 23 年度に開校し、1 学年ずつ増やしていった為、まだ中期計画の中では検証の対象にもなっていないかった。

松村委員 富雄第三小中学校は 1 小 1 中で人間関係が変わりにくく、今後児童生徒数が減少することで西の外れの校区になってしまうのではないかという懸念は保護者が皆持っている。クラス替えのない学年もあるが、社会に出ても実際仕事をするのは少人数のグループであり、少なさの利点を生かして、その中でどうやって人間関係を築いていくのか、どのようにお互い向き合って理解していくかを鍛える練習をしているのだという声掛けをしている。大規模でクラス変えできるからよいという利点もあれば、少人数でお互いに向き合うことができる利点もあり、その環境をどのように生かしていくのかという発想の提案をしているところである。

重松会長 富雄第三小中学校は小中一貫教育のモデル地区でもあるのでこのまま状況を見守ることとする。都跡中学校区は特に意見なければ、特段大きな変化はないということなので、推移を見守ることとする。平城中学校区はいかがか。ここも同じく、大きな変化はないとのことなので、意見がないのであれば、推移を見守ることとする。飛鳥中学校区も緩やかに減少し適正規模へ向かうため推移を見守ることとする。若草中学校区は鼓阪小学校と鼓阪北小学校が小規模になっているが、歴史的な地区なので厳しいところもある。前期中期を見ても、適正化の対象となっただけでは地域の方に不安を与えてしまう。他の地区に比べ、多少具体的なアクションを検討する必要があるのではないか。過小規模になる懸念も含めて、少しずつ説明を進めてもらいたい。春日中学校区はいかがか。済美南小学校は小規模だが、急激に減少することはないのか。

[事務局] 済美南小学校は今後増える見込みとなっている。

重松会長 増える見込みであるなら、このまま見守っても問題ないと考える。三笠中学校区はいかがか。椿井小学校は過小とまではいなくても、小規

模校である。近鉄の近くということもあり、特色ある学校経営から奈良市の教育のモデル校の1つにもなっている。今後とも教育の質の向上という意味で、学校や保護者にも特色ある学校への支援を賜うようお願いしたい。都南中学校区はいかがか。小学校数が多くなっているが、特に帯解小学校と精華小学校が小規模、過小規模となっている。幼稚園についても来年度は入園児童数がない見込みになっており、幼稚園についても検討の対象となっている。これらをふまえてご意見を頂きたい。

松村委員 精華小学校は全学年で3学級なのか。人数の分布はどうなっているのか。

[事務局] 精華小学校の児童数は1年生が3人、2年生が2人、3年生が5人、4年生はおらず、5年生が3人、6年生が5人の計18人となっている。保護者の何人かは統合やむなしと考えているが、強く反対している方もおられる。もし統合するなら相手は帯解小学校となり、2校間の通学はバスで10分程度になる。

松村委員 人数が非常に少なく、体育や音楽等を考慮すると、保護者は内心非常に不安に感じられていると思う。具体的に先の見通しを提案した方が、保護者側も適正化に向けての話がしやすいのではないか。

古山委員 たとえ精華小学校と帯解小学校が統合しても小規模に変わりなく、今後また減少してくる可能性もある。通学にバスを使うならば多少距離が増えたところで許容できると考えれば、もっと先を見通して、他の学校へ行くことは検討できないか。

[教育政策課長] 精華小学校自体も校区が広範囲になっている。別の学校となるとさらに広範囲になり、バスであっても厳しいと考える。奈良市に財力があれば中間地点に校舎を新設という提案もできたかもしれないが、それも難しい。先日、認定こども園の説明と併せて、精華小学校、帯解小学校の適正化について社会福祉協議会で説明を行った。通学バスを提案し、これまでは統合場所を帯解小学校、精華小学校、中間地点の3案で検討していたが、帯解小学校に統合再編という方向で説明した。地域からは通学の保障が大きな案件として挙がった。奈良市としては最大限努力したいと伝えた。適正化への意見について保護者個人の聞き取りまでには及んでおらず、保護者と自治連合会との対立は避けたい。寂しい気持ちもあるだろうが快く進めて頂きたいので、自治連合会を飛び越えて保護者と面談をするわけにはいかない。まず地域へ説明し、保護者との面談をお願いしている。帯解・精華は来年度あたりから教育の面から集団教育が保障できるような取組を学校にもお願いしている。具体的な動きはまだだが、一刻も早く子どもたちの集団の学びを保障できる環境を整えていけるよう進めてい

きたい。

重松会長 先ほどから話に出ている通り、曖昧なものではなく、ある程度見通しを持った計画を明確に示して進めていくべきである。その中で出てくる不安も随時解決しながら、幼保再編とも連動して進めてほしい。

竹村委員 以前から比べると、前を向いてきた印象を持った。当初精華が帯解に行くのはかなり抵抗があったが、話し合いを重ねるうちに帯解に行くという思いが定着してきている。

重松会長 丁寧で具体的な説明をしている成果が表れていると思う。

[教育政策課長] 社会福祉協議会での説明内容を参加されている方が他の皆に確実に周知してほしいと会長が言われた。役員の改選後に協議会の設置を考えるとの言葉を頂いた。

重松会長 では、次に田原中学校区について。特認校制度なども含めて、地域の活性化を進めている地域である。地域活性化や、教育の質の向上について何か意見はないか。

井上委員 特認校制度についての議論は現在どうなっているのか。

[事務局] 過去に先進地域への視察を行い、利点や課題などを検討委員会の場で報告させて頂いている。利点は児童生徒数が増えることだが、課題もいくつかあり、1点目は校区外の子どもが増えると地域の取組がしにくくなることである。2点目は、集団での活動が難しい子どもや、特別支援を要する子どもが集まることで苦労しているという声がある。3点目は、制度を導入したが全く人数が増えないという問題もある。4点目は、交通の便が悪いことにより、通学が保護者の負担になっている。田原には路線バスが出ている為、特認校制度を導入してはどうかと検討している。地域へはまだメリット、デメリットの話が出来ておらず、きっちり説明しつつ進めていく必要がある。

重松会長 この様な具体的な計画を提案しながら、地域の方の気持ちを大切にしながら進めて欲しい。先ほどから議論している柳生・興東中学校区については中期計画から引き続き適正化を進めて頂き、続いて、月ヶ瀬中学校区に移りたい。月ヶ瀬中学校区は地理的にも特認校制度の導入は厳しいということで、特別な地域という要素もあり、特色ある学校づくりを進めるとのことだが何か意見はあるか。

南出委員 10年ほど前から中学校、小学校の規模は変わってない。上野市には高校がたくさんあり、働き口もあるので、世代を超えて一緒に暮らしている家庭が多い。子どもの数も減りにくい。月ヶ瀬村の時代も小さいスケールメリットを生かしていた。

重松会長 そういう意味でも小中一貫等の特色ある教育の推進を進めて頂きたい。都祁中学校区はいかがか。今後の状況次第では再編を一層進める

という計画だが、意見はあるか。

畑中委員 都祁中学校区の方からいつ統合再編されるのかという話が出た。これまで丁寧に説明されてきたからこそ前に進み始めているのだと思う。保護者の意見の集約は大切だが、賛成、反対が同じ話し合いの場に混ざると話がまとまりにくい。保護者会もしくは PTA 役員会が保護者の意見を集約した上で、地域や学校と一緒に進めていくべきだと思う。

南出委員 どの学校も 100 年以上の伝統がある。昔から複式を経験されている保護者が多い。複式でも良いから、せっかく自分たちが築いてきた学校をせめて数年間は分校にしてから統合にして欲しいという意見もあった。また、地域には山辺高校もあり、小中高一貫を検討している教育委員会もある。地元の子どもは地元の学校へ行かせたいという考えの下、山辺高校を中心に活性化を進めている地域である。

重松会長 前期、中期、後期を見ても、今後どうするかを示さないとどちらも不安になる。奈良市として具体的な方向性を示すことでお互いが話を進められる。引き続き丁寧な対応をお願いしたい。以上のような形で後期計画を進めていく。地域の軽重、問題点の違いはあれど、共通するのは示すところは示し、将来像へ向かって腹を割って話すことだ。教育委員会だけでなく他の関係部局も参加頂いて、更に具体的な展開を検討していく。

岡田委員 統合を進める、進めないの線引きがあまり分からない。過小規模、小規模で統合しない地域は特色がある。では統合するところは特色がないのかということ、そういうわけではない。どの地域も特色はあるはずだと思う。小中一貫が進んでいる地域は特色があると言うが、他の要素も特色と言えるのではないか。設備や制度だけが特色といえるのだろうか。全体的にあまりはっきりしていない印象があり、検討をしてもよいのではないか。

重松会長 前期から、大規模、適正規模、小規模、過小規模という基本的な枠組みを作って地域の特色化などを検討してきたが、場合によっては地域によっての線引きに理由付けが必要になるという指摘だった。事務局から何か意見はあるか。

[教育政策課長] おっしゃるとおりどの学校も特色ある学校づくりを進めているのは事実である。次回には後期計画において統合再編の是非の理由が分かる素案を提案したいと考えている。それぞれの学校について理由を今後説明していきたい。

- 教育政策課長が、本日のまとめと挨拶を行った。
中期計画 3 年が今年度で終わる。本来ならば興東中学校と柳生中学校が大柳生小学校跡地で統合し、来年 4 月から開校するという計画だったが、現状は難しいという報告をさせて頂いた。しかし、保護者の意見を聞き

ながら少しずつ動き始めているのではないかと思う。保護者の中には、学校生活が残り少なくなる時期であっても、統合再編してほしいという意見もあった。自分自身は統合反対だが、自分の子どもが中学校へ入学する時期ならばその子のために賛成していただろうという保護者もいた。ただ、保護者の意見が賛成だからといってすぐに進めるというわけにもいかず、今回の結果を伝え、地域の理解を得ながら進めていければと思う。最後に頂いたご指摘も含め、後期計画には具体的な提案をさせて頂く。次回にも審議をお願いしたい。